



第37回 オートサービスショー2023

2023 6.15 THU 17 SAT

10:00~17:00
(最終日17日(土)は16:00まで)

東京ビッグサイト【東1ホール・屋外展示場】

BANZAI NEWS

2023
Spring
326

SMART SERVICE ~ 自動車整備のみらいをデザイン ~



ご来場を心よりお待ちしております!

特集 BANZAI NEWS

電動化でメンテナンスフリー化が進んでも 儲かるお店作り



BANZAI 株式会社 バンザイ

本社
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6880
E-mail: eigo@banzai.co.jp

営業部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6881

海外販売部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6894

札幌支店
札幌市西区24軒1条7-3-10
TEL 011-621-4171

仙台支店
仙台市宮城野区福室2-8-21
TEL 022-258-0221

関東支店
埼玉県北本市朝日4-553
TEL 048-590-3700

東京支店
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6840

名古屋支店
名古屋市千種区青柳町6-26
TEL 052-732-2600

大阪支店
大阪市長田東3-3-11
TEL 06-6744-1041

広島支店
広島市西区南観音2-7-10
TEL 082-233-3201

福岡支店
福岡市博多区那珂5-3-15
TEL 092-411-1261

- 営業所 旭川・青森・秋田・盛岡
郡山・山形・新潟・長野
前橋・宇都宮・水戸・埼玉
千葉・横浜・静岡・多摩
北陸・三重・京都・神戸
高松・宮崎・鹿児島
- 出張所 帯広・函館・富山・松山
岡山・山口・山陰・長崎
大分・熊本
- 販売会社 バンザイ沖縄販売(株)

<https://www.banzai.co.jp>



ISO9001 認証取得
ISO14001 認証取得

バンザイは、SDGsを推進する
日本ユネスコ協会連盟の維持
会員として支援しています。



白馬三山と野平の一本桜 ————— 長野県白馬村

白銀に輝く北アルプス、白馬三山の峰々に薄紅のいろどりを添える満開の桜。標高3000メートルに迫る白馬岳、杓子岳、鐘ヶ岳の稜線は蒼天に純白の輪郭を描き、山麓の白馬村にも遅い春がやってきました。

★歳時記

- 4月 18日 発明の日
- 29日 昭和の日
- 5月 3日 憲法記念日
- 4日 みどりの日
- 5日 こどもの日
- 6月 5日 環境の日
- 10日 時の記念日
- 21日 夏至



●目次

★特集

相次ぐパラダイムシフトへ
果敢に挑戦できるサービスショップとなるには?..... ①

【第1回】電動化でメンテナンスフリー化が進んでも儲かるお店作り

★モデルショップ訪問
[株式会社インターヨーロッパ ボルボ・カー名駅北大曽根サービス]..... ⑥

急速に進展するEV化に対応、
サービスの新たなベンチマーク目指す
[ネットヨタ愛媛株式会社 だんだんPARK]..... ⑧

「地域繁盛」をコンセプトに、
クルマの魅力、楽しさを発信する空間創造

★ショールーム..... ⑩

★EPOCH<オートサービスショーのご案内>..... ⑭

★ロータリー..... ⑯

★BANZAIガイド..... ⑰

特集

BANZAI NEWS

相次ぐパラダイムシフトへ
果敢に挑戦できるサービスショップとなるには?

第1回 電動化でメンテナンスフリー化が進んでも 儲かるお店作り



地球温暖化が原因とされる相次ぐ異常気象や大災害に、各国・企業間の複雑な政治・経済情勢も絡み、2050年のカーボンニュートラル実現に向けた自動車の電動化が急激に進みつつあります。

また、少子高齢化に伴い、高齢者が関係する重大な交通事故の比率が高水準にあることも受けて、2050年までの交通事故による死亡事故ゼロを目指した自動運転技術の進化・普及も活発化しています。

当新連載「相次ぐパラダイムシフトへ果敢に挑戦できるサービスショップとなるには?」、1回目の今回は、電動化が進むことでクルマのメンテナンス、ひいてはサービスショップの皆様の事業がどう変化する可能性があるのか、またそうした変化にどう対応すべきかを、考えていきたいと思ひます。



初代トヨタ・プリウス



3代目トヨタ・プリウス



初代トヨタ・アクア

電動車が普及すると サービスショップの 収益の柱が消失する!?

前号でも詳しくお伝えしました通り、2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、自動車の電動化が急激に進みつつあります。

ただし、ここでいう「電動化」あるいは「電動車」とは、BEV（バッテリー式電気自動車）やFCV（燃料電池車）などのテールパイプZEV（走行時ゼロエミッション車）だけに限りません。エンジンと電動パワートレインの双方を搭載するハイブリッド車も含まれます。さらに言えばハイブリッド車は、外部からの充電を可能にしたPHV（プラグインハイブリッド車）や、それとは対照的にごく小さな電動パワートレインを搭載するマイルドハイブリッド車も含まれます。

そんな電動車ですが、1997年に初代トヨタ・プリウスが発売されて以降、日本でも着実に普及が進み、2009年に3代目プリウス、2011年に初代トヨタ・アクアが発売されると、販売台数が爆発的に増加しました。

その結果、日本国内の電動車保有台数は2022年3月末時点で1100万台を超えており、保有台数全体の8台に1台、乗用車に限っても6台に1台が電動車となっています。ですから多くのサービスショップの皆様はすでに、電動車の整備・修理について熟知されていることでしょう。

ですが、ここで敢えて、昨今「ICE」（アイス。本来は「内燃機関」の意）とも呼ばれる純エンジン車に対し、クルマのメンテナンスがどのように変わるかを、予測しつつ整理したいと思います。

まずBEVとFCVでは、エンジンが搭載されないため、エンジンオイルとそのフィルターの交換が不要になります。

これが意味するのは、短時間で作業でき利益率も高い両アイテムの交換による収益が得られなくなるだけに留まりません。スポーツカーやディーゼル車のカーオーナーまたは月間走行距離が長く頻度も高いヘビーユーザーなら3~6ヵ月、そうではないカーオーナーでも1年に1回は得られていた接触機会が失われることも意味します。

だからこそ、メンテナンスパックあるいはメンテナンスリースによって、半年に1回の入庫を確実にものとするのが、エンジンを搭載する車両以上に重要となります。

なお、BEVやFCVにもトランスミッションや冷却系は存在しますが、そのオイルやクーラントの交換頻度は現状の純エンジン車などと同等以上に長いので、サービスショップの経営を支える収益源にはなりにくいと思われます。

次にブレーキですが、アクセルオフ時にモーターが回生を行う電動車、特に回生協調ブレーキを実装する車両であれば、減速時における油圧ブレーキへの依存度が大幅に低下するため、ブレーキパッド・ローターなどの交換頻度も激減します。このことは、すでに多くのサービスショップの皆様が、常日頃実感されていることでしょう。

そしてこの事実は裏を返せば、より大きなモーターやバッテリーを搭載し、回生時により大きな減速Gを発生できるBEVやFCVであれば、回生ブレーキで減速の大半をまかなえるため、油圧ブレーキに耐フェード性の高いものが求められなくなることも示しています。

実際に一部の部品メーカーは、電動車向けブレーキシステムとして、フロントブレーキ全体を小型化のうえローターを大径薄肉ソリッド化したものや、四輪ともドラムブレーキ化したもの、さらにはブレーキシステ

ム全体を電動機械式とし油圧回路を不要としたものも、すでに開発し始めています。

これらの動きは、粉じんなど環境規制の強化に加え、車両の軽量化、あるいはADAS（先進運転支援システム）や自動運転における緻密な挙動制御が、今後より一層強く求められることを見越してのものです。その中でブレーキのメンテナンスフリー化もさらに進むことが予想されます。

メンテナンスフリー化は 純エンジン車でも進行中

しかしながら、こうしたメンテナンスフリー化の動きは、何も電動車に限ったことではありません。純エンジン車にもその波が押し寄せつつあるのです。具体的には、補機バッテリーとタイヤがそれに当たります。

まず補機バッテリーですが、マイルドハイブリッド車で駆動用バッテリーとして用いられている12~48Vのリチウムイオンバッテリーを補機バッテリーに転用することは、技術的には現時点で十分に可能です。

この鉛代替リチウムイオンバッテリーが市販車に採用されれば、メンテナンスも車検ごとの交換も不要になるうえ、形状自由度も高いため狭いスペースを有効活用しやすく、アイドリングストップ用あるいはADASのバックアップ用にも使用できるなど、様々なメ



BEVのパワートレイン (写真はトヨタbZ4X)



FCVのパワートレイン (写真は現行2代目トヨタ・ミライ)



ハイブリッド車のパワートレイン (写真は現行5代目トヨタ・プリウス(2.0L車))



PHVのパワートレイン (写真は現行5代目トヨタ・プリウスPHEV)



フロントブレーキ全体を小型化のうえローターを大径薄肉ソリッド化したコンチネンタルの「グリーンキャリパー」(写真右側)。左側は既存の一般的なフロントブレーキ



リヤドラムブレーキを電動機械式とし油圧システムを廃止したコンチネンタルの「FBS2」



フロントディスクブレーキも電動機械式とし油圧システムを完全に廃止したコンチネンタルの「FBS3」

リットがカーメーカーとカーオーナーの双方にもたらされます。

そしてタイヤも、タイヤメーカー各社がかねてより開発を進めているエアスタイヤが実用化されれば、釘が刺さってもパンクしなくなるばかりか、日常の空気圧チェックや空気の充填が必要なくなります。

もちろんトレッドゴムは摩耗するため、完全メンテナンスフリーにはならないものの、現状の大型車用リットタイヤと同様に貼り替えればよいため、空気入りタイヤを丸ごと交換するより省資源なのは言うまでもありません。

このエアスタイヤは、実用化に向けた課題が技術的にも法的にも山積しており、車重も車両のサイズも大きいミッドサイズ以上のクルマ、とりわけ公道を走る市販BEVやFCVに採用されるのは当面先となりそうです。しかし、ひとたび実用化され技術の熟成が進めば、幅広い車種への採用が進む可能性は充分に考えられます。



東芝のチタン酸リチウムイオンバッテリー「SCiB」の鉛代替バッテリーモジュール



トヨータイヤのエアスタイヤ「noair(ノアイア)」

性能要件が厳しい 電動車向けタイヤは 重要な収益の柱に

このように、交換サイクルが短く単価も利益率も高い消耗品であり、サービスショップの皆様にとって大切な収益の柱である、エンジンオイル・フィルター、ブレーキ、補機バッテリー、タイヤはいずれもメンテナンスフリー化が進み、遠くない将来に収益源ではなくなる可能性が高いでしょう。

ただしこの中でタイヤだけは、エアスタイヤの実用化・普及が進むまでは、電動車の普及とともに重要度がむしろ高まると予想されます。というのも、電動車に装着するタイヤに求められる性能要件は、純エンジン車よりも全方位的にシビアになるからです。

まず、航続距離を少しでも稼ぐため、転がり抵抗が低いことが極めて重要になります。また、ハイブリッド車であっても、エンジン停止中は騒音・振動が極めて少ない一方、タイヤから発生するノイズはエンジンによって打ち消されなくなり、むしろ目立ちやすくなるため、タイヤ自体に高い静粛性が求められます。

さらに、電動モーターや駆動用バッテリーで増加した車重に耐えられる高い荷重指数、モーターの大トルクに耐えられるグリップの高さと耐摩耗性も大切です。そのうえ、環境負荷の少ないエコカーの部品として、天然ゴムなどのよりサ



高難度タイヤ交換にも対応できるレパレスタイヤチェンジャー「TCSI-1100」



ユニフォーミティ測定機能を備える高精度ホイールバランサー「GEO-OPTIMA-2」



多彩なコーティング&洗浄機能を用意する門型洗車機「エminentαIV」

ステナブルな素材を多用することも、欠かせない指標となるでしょう。

端的に言えば、これら相反する数多くの性能要件を高い水準で兼ね備えなければならない電動車向けのタイヤは、それだけ単価が高く、高収益なアイテムになりうるということです。

しかしその一方で、交換作業の難易度も少なからずアップすることでしょう。ですから、重くサイドウォールが硬く大径で低偏平なタイヤでも、安全かつ容易に交換できる全自動タイヤチェンジャーや、高機能なホイールバランサー、少ない力で運搬・保管できる移動式タイヤカートなどの導入が、必要不可欠になります。

バンザイでは、こうしたタイヤを効率良く交換できるタイヤ整備機器を多数取り揃えておりますので、ぜひお気軽にご相談下さい。

クルマのあり方が変化 しても美装領域は不滅

とはいえ、オイル・ブレーキ・バッテリーの整備需要が消失すれば、その影響は甚大です。法定点検の項目からもこれらの部位が廃止されれば、車検や12ヵ月点検時の収益性ダウンは避けられません。となれば、とりわけ整備工場の皆様は、他のサービスメ

ニュー拡充が必須になります。

そこで改めて注目していただきたいのが、クルマの形態がどのように変わろうとも必要性は失われないであろう、美装領域、ディテリングです。

クルマのあり方が所有から使用に変化すると言われて久しいですが、例えそうならうとも、「キレイなクルマに乗りたい」というカーユーザーのニーズが変わることはないでしょう。

クルマの管理主体が法人になればむしろ、キレイな状態を常に保つ必要が個人所有のクルマ以上に生じるため、洗車や車内クリーニング、各種コーティングのニーズは強まる可能性さえあります。

なおかつ人手不足がますます深刻化する昨今、こうした作業の省人省力化も、無視できない重要なテーマです。

バンザイでは、高機能タイプの門型洗車機や、内外装の各種洗浄機器に加え、独自の美装ブランド「B-PRO」の各種ケミカル・副資材を多数ご用意。皆様のディテリングサービスの多様化・高収益化をサポートできる体制を整えております。

今回は引き続き電動化をテーマに、「電動化で整備・修理技術の高度化とインフラの変化が進んでも生き残れるお店作り」について考えたいと思います。

急速に進展するEV化に対応、サービスの新たなベンチマーク目指す

愛知県一宮市に本社を置くボルボ・カーディーラー、株式会社インターヨーロッパではこのたび名古屋市中心部のサービス拠点として「ボルボ・カー名駅北 大曽根サービス」をオープン。今後のEV拡大を視野に、EVサービスに特化した設備を全面的に導入、新たなサービスの構築を推進されています。



国道19号線に面した「大曽根サービス」。



お客様の来店に配慮した店舗イメージに。



店舗デザインはボルボ・カーズのCIを全面的に導入。



取締役社長
佐藤 仁昭 氏

EV普及を視野に初のサービス拠点開設

名古屋市中心部から北東へ約3キロ、国道19号線に面してブルーのCIカラーをデザインしたスマートな外観の「大曽根サービス」があります。JR、地下鉄名城線の大曽根駅にも近く近隣にはナゴヤドームやショッピングモールも立地するなど、アクセスも好適な拠点環境です。

同社では愛知県、京都府、三重県に新車店舗として10拠点を展開しており、今回の拠点計画は、名古屋中心部の「ボルボ・カー名駅北」および「ボルボ・カー名東」のサービスをサポートし、「このエリアの顧客の利便性を高めるためのサービス拠点です」と取締役社長、佐藤仁昭氏。併せて、今後急速に増加が見込まれるEVのサービスに対応する設備を全面的に導入した、初のサービス拠点として計画されたものです。

全てにEVサービス対応機器を導入

「大曽根サービス」はサービスストール3ストールに検査ライン、さらに洗車場と立体駐車場を併設しています。またストール奥に分解整備場を広く取り、バッテリー等のサービスにも十分なスペースを確保しています。

サービスストールには4トン能力、フラットアームワイド式のタンデムリフトを3基導入、大容量バッテリーの脱着サービスにも余裕を持って対応できるほか、上昇・加工時もフラットな床面となるため安全で効率的な作業が可能となっています。また必須となる充電設備は駐車場に急速充電器を1基のほか、普通充電器を各所に設置しています。

そのほかサービスストールにはすべてエアコンを完備し、安全、快適性を向上、高品質なサービスの提供を可能としています。



サービス工場も環境時代にふさわしい明るく清潔なイメージに。



フラットな床面で安全、快適な作業環境を実現。



ストール右奥に分解整備場を広く取り、大型バッテリーのサービスにも配慮。



床面を濡らすことなく清掃できる床清掃機も完備。



門型洗車機は拭き取り作業の効率化のため、ドライを2往復できるオリジナル仕様。



市街地のサービス拠点として立体駐車設備を完備。



検査ラインにはトリプルテスター、ワークステージX・4トン仕様を導入。



ワイドな4トン・タンデムリフトでバッテリー整備に対応。



今後の足回りニーズに対応するタイヤサービス機器。

ボルボ・カーサービスのベンチマークに

「EVの普及にともなう後はサービスの形も変化が予想されます」と佐藤社長、車両の重量化にともなうタイヤサービスの増加、さらに急速に進化する自動運転化レベルの向上に対応するエイミングサービスの重要性など、「ディーラーとして今後ますます対応が必須となる高度なサービスが求められてきます」とのこと。

ボルボ・カーズでは2030年までにすべての販売車両のEV化を掲げており、「大曽根サービス」では当面は既存HV車両のサービス・サポートを主として、今後のEVサービスの体制づくりを推進していきたいとのこと。今後、「大曽根サービス」が国内ディーラー・サービス拠点の新たなベンチマークになるものとして注目されています。



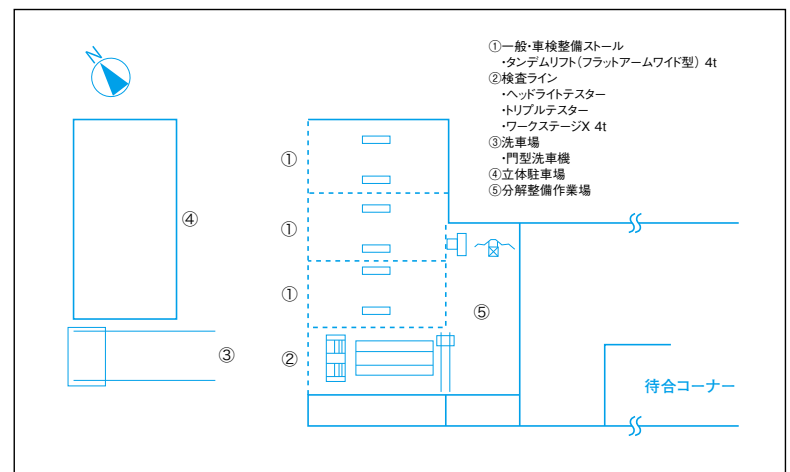
急速充電設備は1基、普通充電器は各所に設置。



ゆったりとした快適な待合スペース。



インテリアもすべて洗練された北欧イメージに。



「地域繁盛」をコンセプトに、クルマの魅力、楽しさを発信する空間創造

愛媛県内に14店舗の販売拠点を展開するネットヨタ愛媛ではこのたび、従来の「J.Spot空港通」店の敷地に新店舗「だんだんPARK」を開設、これまでの自動車販売・サービス拠点の枠を超えた複合店舗として、地域の人々に新たな利用シーンを提案しています。



敷地面積5327平方メートル。愛媛みかんの「段々畑」のように、奥へ向かって高まっていくデザイン。



代表取締役社長 玉置 竜氏



EVの普及も視野に急速充電スペースも完備。



地元の人気店が営業する1階のカフェ。

地域への感謝を「だんだん」に込めて松山空港から松山市の中心部へ向かう「空港通」に面した「だんだんPARK」はネーミングの通り、店舗奥へ向けて高く、広くなっていく「段々」のデザイン。併せて「地域への“だんだん(地元愛媛の方言で、ありがとう)”という気持ちを込めました」と代表取締役社長の玉置竜氏。これまでのディーラー店舗にありがちな「敷居の高さ」をなくし、土日のイベントだけでなく「日常的に人が集まる場所に」したいという発想が出发点です。そのため、子供連れ、ファミリー層にも来店しやすい複合店舗として、さまざまな店舗コンテンツを検討されたとのこと。その中で、たんに時間とスペースの提供にとどまらず、「地域とのかかわり」を創り出す空間として、ユニークな「キッズルーム」や「コワーキングスペース」に着目されました。併せて道路の向かいにあった「GR Garage松山」を店内に移転することで、「コアなお客様以外にもアピールしたい」との狙いもあったとのこと。



屋外にはテラス席も、庭園のようなイメージに。

サービスでお客様と「つながり」創り

サービス工場は店舗奥の1階部分にレイアウト。ネット店とGRガレージを合わせて11ストールに検査ラインと洗車場を併設しています。サービスストールにはタンデムリフト7基、パスカルリフト2基、ワークステージX1基、さらに足回りストールにアライメント仕様のフラットワークステージX1基を導入、幅広いサービスに対応する効率的な作業空間を実現しています。

「サービスはお客様とのつながりを創る重要な接点」と位置付ける玉置社長。お客様にいいサービスを提供するために、「エンジニアの働く場所として、快適な環境づくりが大切」と、サービスストールすべてにエアコンを完備するなど、明るく快適な作業空間となっています。



車検整備ストール、リールボックスはスライド式架台に設置。



検査ラインにはネットワークシステムを導入。右隣りはEVストール。

左端はGRガレージの足回りストール、リールボックスのデザインでネット店と区分。



クルマファンに向けたサービスを行うGRガレージのサービスストール。



洗車場と拭き取り作業場。



サービス工場も見られる待合ラウンジ。

起業の支援、地域交流の場にも

「だんだんPARK」は道路に面した1階部分から、奥の3階部分まで「だんだん」を付けた立体的な空間づくりと、各フロアを回遊式に楽しめる店舗レイアウトが特徴です。1階にはカフェと吹抜けのイベントホール、2階はGRガレージ、3階にはキッズスペースとコワーキングスペースをレイアウト、各コンテンツもそれだけを目的として訪れることができる本格的な仕様・内容を備えています。

「地域全体が盛り上がりがないと、カーディーラーも成り立ちません」と玉置社長。「だんだんPARK」のコンセプトは「地域繁盛」にあると話されます。

「地域の未来を担う子どもたち、地域で起業を目指す人たち、多くの人に気軽に利用してもらえる店に」、その中で「クルマの魅力、楽しさを自然な形で伝えられるような場になれば」と、地域交流の場として「つねに進化していける店にしたいですね」と抱負を語っておられます。



1階のロビー。多彩なコーナー配置で変化のあるデザインに。



2階には「GR Garage松山」もあり、多くの来店客にアピール。

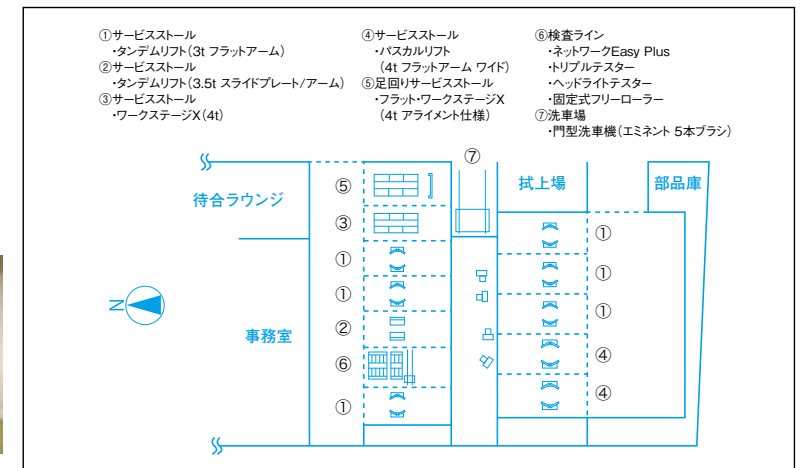


ビジネス支援も想定される3階のコワーキングスペース。



遊具のポーネランド監修によるキッズルーム。平日も来店客が絶えない。

さまざまなイベントに活用される「だんだんホール」。



SHOW ROOM

SHOW ROOM

【ディーゼル車排ガス測定器】オパシメータ GSM-210/GSM-210R

ネットワークシステムへの接続に対応測定から合否判定まで、さらに効率アップ※

- <本体共通> (GSM-210/GSM-210R)
- 本体指示計はバックライトで視認性を向上
 - 清掃はエアで簡単
 - 無線式プリンター対応(オプション)
 - 車検システムとの接続対応(オプション)

※車検システム接続はオプションです



GSM-210R: ワイヤレスリモコンモデル

- SR-LINK(無線方式)で10m対応(電波障害が無い場合)
- 黒煙規制値は番号で選択(8種、うち予備2種)
- アクセル操作をカウントダウンと「ふむ」・「はなす」ランプで指示表示
- 保安基準適合・不適合を「OK」・「NG」ランプで表示

GSM-210: 有線リモコンモデル

■オプション



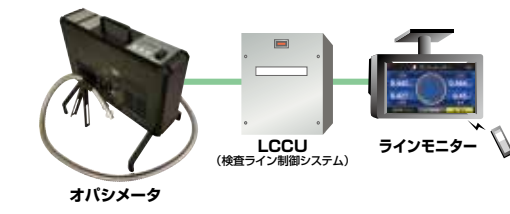
■本体仕様

型 式	GSM-210	GSM-210R
リモコン	有線	有線+無線
測定方法	光透過式(パーシャルフロー排圧式)	
測定原理	排圧分流式	
測定範囲	0.000~9.998m-1	
表示器	デジタル式(7セグメントLCD)	
使用環境	温度: 5~40℃ / 湿度: 90% Rh以下	
電源(V)	AC100V(50Hz、60Hz)	
外径寸法(mm)	400W×100D×250H	
重量(kg)	4.7	
標準付属品	電源ケーブル(10m)、リモートスイッチ(有線リモコン 10m)、サンプリングプローブ(1.54m)	

■ワイヤレスリモコン仕様

型 式	GSM-210Rに含む(GSM-A201WR)	
接続方式	SR-LINK(2.4GHz)	
通信距離(m)	10	
表示器	7セグメントLCD	
寸法(重量)(mm)(g)	80W×40D×140H(320g) ※電池・カバー含む	
電源	単三アルカリ乾電池×2	
標準付属品	単三アルカリ乾電池×2、シリコンカバー、ストラップ	

■車検システム接続構成



車検システムと接続することで、検査業務の効率化をサポート

商品型式	GSM-210 + GSM-OP-NW	GSM-210R + GSM-OP-NW
適合試験型式	GSM-200 類別 B-80	GSM-200 類別 R・B-80
LCCU(制御盤) バージョン	Windows10版 Ver7.1.0以降	

【注記】
●車検システム(ネットワークシステム)との接続には、一般社団法人日本自動車機械工具協会による検査費用がかかります。(既設改造)

【車高測定装置】車高測定装置 HMS-2400-GP/HMS-2400-WM

車両を通過させるだけで、ディスプレイに通過車両の最高高さ、最高値ポイント、シルエットを表示!

HMS-2400-GP: 自立支柱式
HMS-2400-WM: 壁取付式

- 確認しやすい10インチ液晶ディスプレイを採用!
- 光軸ピッチ5mmのエリアセンサーを採用。精度±10mm以内での測定が可能
(測定位置のフロアレベル、センサー取り付け位置により精度は異なります)
- 自立支柱の表面処理は溶融亜鉛メッキ。
(水濡れ環境への設置は不可)
- 「壁取付式」は、対象車両に合わせてエリアセンサーの取り付け高さを任意の位置にきめることが可能です。
- 「自立支柱式」は、「500mm支柱嵩上げキット」(オプション)を同時設置することで、全高4,500mm(測定範囲は2,100~4,500mm)までの車両を測定することが可能です。



自立支柱式

■液晶ディスプレイに測定値を表示



現在高さ、最高高さ、最高値ポイントを表示して、通過車両のシルエットも描写します。

■測定結果の記録保存



●Bluetoothタッチパッド付キーボードからUSBメモリ等に測定結果ログの出力が可能です。

■仕様

型 式	HMS-2400-GP	HMS-2400-WM
設置方式	自立支柱式	壁取付式
本体寸法(W×D×H)(mm)	6,000×1,230×4,200	センサー部: 36×45.2×2,511 モニター部: 500×160×400
車両高さ測定範囲(mm)	1,600~4,000(標準)	任意
エリアセンサー 検知有効範囲(mm)	2,400 光軸ピッチ: 5	
左右エリアセンサー間 最大距離(mm)	—	7,000
電源(V)	AC100 5A	
モニターサイズ(inch)	10.4	
測定単位	mmまたはcm	
オプション	500mm支柱嵩上げキット(HMS-OP-RK)	—

SHOW ROOM

【CVT/ATフルード交換機】マルチハイブリッド・CVT・ATフルードチェンジャー AMC-1100/AMC-1100P

レベルゲージレス車のフルード交換が
油量調整・低温～高温まで温度フリー、
3モード交換システムで、さらにスピーディに!

- オイルドレン一体構造
排出したフルードを自動計量・記憶してワンタッチで同量の新油を注入。
- 3モードCVT・ATフルードチェックセンサーを搭載
最新カーメーカー純正AT・CVTフルードフルードに診断システムをアップデート。
- 3モードフルード交換システム
国内HYBRID・CVT・AT全モデル、レベルゲージレス車の自動フルード交換に対応。
- 自動残油排出機能
入れきる、抜ききる、給排ホース内の残油を自動排出。
フルードの混ざり、注入誤差を最小限に。



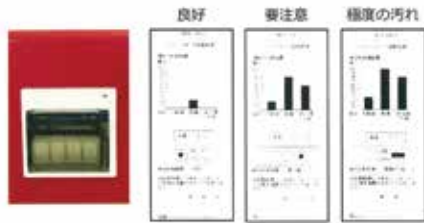
■フルード診断で交換ビジネスをサポート

フルードの「不純物」・「汚れ状態」・「油温」の状態をデジタル表示。
フルードの状態を13レベルで表示、フルードの良否が一目瞭然です。



■プリンター機能搭載(AMC-1100P)

診断結果はLED表示判定、音声案内。
AMC-1100Pはプリンター印字機能付き。



■3つのモードで、あらゆる車種のフルード交換を、より速く!

- ①全自動モード
 - ・自動循環フルード交換。
 - ・軽自動車CVT・ATレベルゲージ付車に最適。
- ②オーバーフローモード
 - ・温度フリー&油量自動調整システムを内蔵。
 - ・自動オーバーフローフルード交換。
 - ・乗用車CVT・ATレベルゲージレス車に最適。
- ③HYBRIDモード
 - ・自動ワンサイクルフルード交換。
 - ・乗用車HYBRID・EVレベルゲージレス車に最適。

■仕様

型 式	AMC-1100/AMC-1100P (※1)
電源・モーター	AC100V 50/60Hz 55Wコンデンサー運転型 (定格 30分)
ポンプ	トロコイド式ポンプ 2~4L/分(※2)
交換方式	①循環全自動式 ②手動式 ③オイルドレン油量計測システム
計測方式	重量センサー方式
制御方式	マイコン制御方式
タンク	新油ベール缶 20L、廃油ポリエチレンタンク 20L、サブタンク 0.3L
給排ホース	9.5φ×15φ×1.8m
外形寸法	W610×D430×H1,030~1,680 mm
重量	約 55(本体) kg

※1 AMC-1100Pはプリンター付 ※2 油温により異なります

SHOW ROOM

【作業台】トップサイドクリッパー RXC07-08

エンジンルーム内の整備、
ルーフ部のワックス掛け作業などに便利です!

- 高さは1,190~1,750mmまで5段階調整が可能
- 手が届きにくい場所や、体を乗り出すような作業姿勢の作業に最適
- 使わない時は、折りたたんでコンパクトに収納が可能



使用イメージ



折り畳み収納状態



■仕様

型 式	RXC07-08
本体寸法 (mm)	W1,370× D830× H1,190~1,750 (5段階)
マット部寸法 (mm)	440× 470
均等耐荷重 (kg)	180
重量 (kg)	30
キャスター	固定×2、自在×2

【アライメントデータ】マイクロライン用アライメント基準値データ DATA-JP-20/ DATA-IPC-V44.10

マイクロラインシリーズ用
アライメント基準値の更新データを収載。

- 2019年1月~2020年3月までの新規車種を追加。
- 対応機種
・ML-EASY3Dシリーズ ・ML-EASY3D-PLUS ・ML8(R)TECH ・ML5000TECH ・ML1800-6C
・ML5001DC ・ML81TECHDC ・VAS6767 ・VAS6767-A ・ML-WIN(アップグレード機)

■仕様

型 式	① DATA-JP-20	② DATA-IPC-V44.10
商品名	BML国産・一部外車データ 2020	マイクロライン用輸入車アライメント基準値データ
必要PC	Windows XP以上	Windows 10以上

※国産車・輸入車データの両方が必要な場合は①②ともに必要となります。

※商品内容はインストール用CD-ROM、取扱説明書、2020年版メニューリストとなります。

未来サービス実現へ、いよいよ開催! 第37回オートサービスショー2023



SMART SERVICE

～ 自動車整備のみらいをデザイン ～

■バンザイブースへ、 ご来場をお待ちしています

新型コロナウイルスの影響により世界の社会、経済が大きな影響下にあった2019年末以来、開催中止を余儀なくされていたオートサービスショーも、いよいよ本年6月15日(木)から17日(土)の3日間にわたって開催の運びとなりました。

バンザイでは「SMART SERVICE～自動車整備のみらいをデザイン～」をテーマに、急速に進化するモビリティへの未来対応を、満を持してプレゼンテーションしてまいります。皆様のバンザイブースへのご来場を心よりお待ちしております。

■未来のサービスをデザイン、 各種ご提案を発信

この間、世界ではSDGsへ向けた大きな潮流の中で様々な変化が起こりつつあり、またビジネスにおいてもDXに代表される大きな革新が求められています。さらに少子高齢化を背景に進む人手不足に対応するさらなる効率化、システム化が必須となっています。

自動車サービスにおいても加速するモビリティ進化の中で、技術面での対応はもとより各種法制度への対応が必須となっており、これからの社会の変化、自動車技術の革新を前提とした「明日へのサービス構築」が望まれます。

このような社会環境を視野に、バンザイでは「自動車サービスの未来をデザイン」する最新の整備機器、各種システムのご提案とともに、新たなサービスビジネスの構築を目指すプレゼンテーションを、バンザイブースの各コーナーにて展開してまいります。

①車検機器・車検システム

未来のモビリティへ向けていよいよスタートするOBD検査。ITを駆使した最新システムで、SMARTな車検業務を実現します。

③タイヤ機器

モビリティ進化の中で、さらに重要なビジネスの柱となるタイヤサービス。高難度化するタイヤに対応する足回り機器をご提案します。

⑤板金・塗装機器

多様化するボディ素材や水性塗料への対応、さらにエイミングも視野に精密なボディアライメントを実現する新時代の車体整備機器をご提案します。

②トータルエイミング

自動運転はレベル3からレベル4へ。高度化するASVIに対応し、さらに重要性の高まるトータルエイミングサービスをご提案します。

④美装(B-PRO)

これからのサービスの重要な柱となる洗車・美装ビジネス。よりハイクオリティ、高付加価値なサービスでビジネス化をサポート。

⑥リフト

より大型化、重量化する車両に対応し、より安全・安心、効率的な作業環境の実現とEV対応を実現する各種最新のリフトをラインナップ。



⑫は屋外展示場となります。

⑦大型車整備機器

モビリティ進化の中でますます重要な役割を担う大型車サービス。高度化・多様化する車両に対応し、安全で効率的にサービスが行える環境づくりを実現します。

⑨ヘッドライトテスター

より多彩なヘッドライトに対応、より効率的、正確な検査を実現する最新のラインナップをご紹介します。

⑪安全啓蒙

大切な人と財産を守るために…。安全な職場とサービスの環境づくりを実現しましょう。

⑧環境・カーボンニュートラル

働く人に優しい作業環境を実現する効率化、省力化機器と未来の地球環境づくりへ、サービスビジネスにおける脱炭素化。これからのサービスの環境づくりへ向けた各種機器をご提案。

⑩BEV

さらに進展するEVシフトの中で、これからのサービスショーに必須の各種充電機器をご提案します。

⑫門型洗車機・洗浄機器

サービスの付加価値アップと作業負荷の改善は、まず洗車・洗浄サービスの見直しから!

第37回オートサービスショー2023いよいよ開幕!

SMART SERVICE～自動車整備のみらいをデザイン～
バンザイブースへ、ご来場をお待ちしています!

会場

東京ビッグサイト(東京国際展示場)
東1・2・3ホールおよび屋外

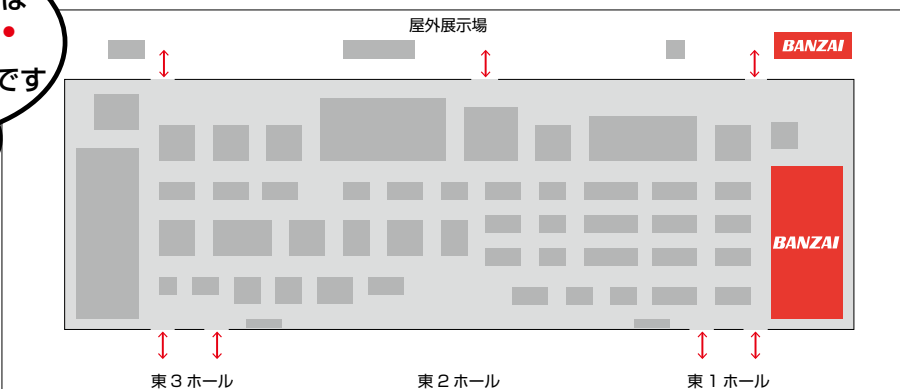
日程

2023年6月15日(木)～6月17日(土)
10:00～17:00 ※最終日は16:00まで



※案内状はイメージです。

バンザイブースは
東1ホール・
屋外展示場です



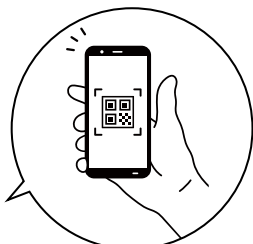
皆様のご来場を心よりお待ちしております!

事前登録をお願い致します

オートサービスショー2023へご来場の皆様につきましては、入場に際し**事前登録**が必要です。
スムーズにご入場を頂くため、**事前登録**をおすすめしています。
(事前登録をしない場合、当日会場にて登録手続きが必要となります)

下記QRコードを読み取って事前登録ページへアクセスしてください。▼パソコンなどからアクセスの方は下記サイトよりお願い致します。
この特設サイトではASS展示会概要もご覧頂けます。

事前登録ページ



[ASS2023] <https://www.jasea.org/autoservice/>



[ASS2023 特設サイト QRコード]

QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です

BANZAI GUIDE

バンザイは「鹿児島」と「宮崎」に 新しい営業所を開設いたしました

株式会社バンザイは4月1日をもって、
100%出資子会社のバンザイ南九州販売株式会社を
吸収合併いたしました。

■販売とお客様対応の強化へ向けて

バンザイはバンザイ南九州販売を吸収合併し、バンザイを存続会社として新たに「福岡支店 鹿児島営業所」および「福岡支店 宮崎営業所」として新体制のもと、鹿児島、宮崎エリアへの販売・サービスを展開してまいります。
今後とも皆様の倍旧のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

●新事業所

福岡支店 鹿児島営業所

〒890-0073 鹿児島県鹿児島市宇宿二丁目 23-13
TEL 099-257-7730

福岡支店 宮崎営業所

〒880-0805 宮崎県宮崎市橘通東五丁目 7-19
TEL 0985-25-3511

編集後記

<田村>



「第37回オートサービスショー2023」が、6月15～17日 東京ビッグサイトに4年ぶりに開催されます。弊社も屋内・屋外のブースにて各種商品を表示・案内させていただきますので、皆様にお会い出来ることを楽しみにしております。新年度・新生活が始まり何かと御

多忙かと存じますが、体調を崩されませんようどうぞご自愛ください。